

第5回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

腫瘍センター事務局

平成27年6月25日(木)に第5回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部霜仁会館3階多目的室で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、MSW、訪問看護師と様々な職種の方々が96名参加されました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の診療連携室の結城美重看護師長を司会として、各施設より事例提示があった後、ディスカッション形式で全体討議を行いました。

事例1：「大学病院から在宅緩和ケア、一般病院で看取りを迎えた乳がん症例」 —骨転移や上腕リンパ浮腫によりADLが低下した患者を支えるために—

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター
山口大学医学部附属病院 看護部
小野田赤十字病院

松元満智子先生
宮内貴子先生
佐藤智充先生

参加者からは、「他施設の現状などが知ることができてよかった。」、「他職種が、いろいろな立場で関わった話を聞けて、とてもよかったと思います。」、「患者だけでなく、患者家族を巻き込んだケアの重要性を認識しました。」、「大変参考になりました。次回も参加したいと思います。」など多くの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、医療機関の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、年2回開催される予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《 検討会風景 》

